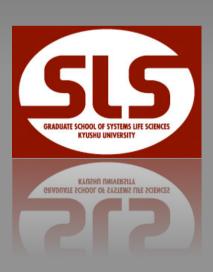
2010年度版

システム生命科学府について



Systems Life Sciences

服巻 保幸

システム生命科学府とは

背景と目的

現在生命科学は、ゲノム情報の加速度的な集積や、ナノ技 術、イメージング技術などの進展により、大きく変貌を遂げよう としています。従って、これからの生命科学は、生命科学領域 と情報科学、工学領域との融合無しには発展できないといって も過言ではありません。つまり、生物学、情報科学、工学など の諸科学の融合が必要であり、そのため複数の専門的素養を 持つ学際的な人材の育成が求められています。このような状 況に対応して平成15年4月にシステム生命科学府が創設され ました。

理念およびカリキュラムポリシー

生物学、工学、情報科学、医学、農学の諸分野を横断的に融合し、これにより社会の要求に堪えうる独創性と柔軟性に富む、かつ工学と生物科学、または情報科学と生物科学といった2つの領域に精通したダブルメジャーの素養を持つ研究者、教育者や高度専門職業人を養成します。

本学府では、多様な分野からの出身者に学際的教育を施すために出身分野とは異なる分野の基礎知識を修得させ、その後専門的知識の深化を図ります。特に学際領域の開拓を目指した学際開拓創成セミナーを設け、異分野間の共通認識、あるいは学際分野での問題点を認識できる教育を行います。そのため、学部教育とは異なる分野を含む複数の指導教員体制をとり、学際的研究を目指した教育を受けることができます。

システム生命科学府の組織構成

単一専攻

教員数 82名

システム生命科学 府 システム生命科学専攻

生命情報科学 講座

生命工学 講座

生命医科学 講座

分子生命科学 講座

生命理学講座

ンステム情報科学研究院

数理学研究院

丄学研究院

農学研究院

医学研究院

生体防御医学研究所

理学研究院

システム生命科学府における教育領域

情報・統計・ モデリング学 解析・生体工学





統合生命科学

高次生命科学·生物多樣性科学 (遺伝子-細胞-個体-集団-環境)

システム生命科学府の特徴

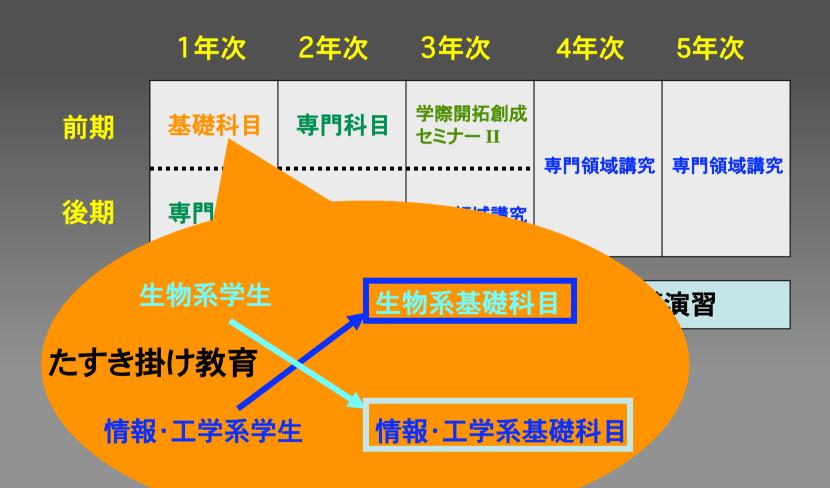
- 1. 学際的、融合的大学院
- 2.5年一貫博士課程 --- 定員 54名 X 5年= 270名 (博士前期課程:D1,D2 博士後期課程:D3,D4,D5)
- ★ D1, D2修了後修士学位取得、就職も可能。
- ★ 他の修士課程を修了後D3への編入も可能。
- 3. 斬新な教育システム
- 4. 九州大学の学府·研究院制度で創設された 最初の独立学府

斬新な教育システム

1年次 2年次 3年次 4年次 5年次 学際開拓創成 前期 基礎科目 専門科目 セミナー II 専門領域講究 専門領域講究 後期 学際開拓創成 専門科目 専門領域講究 セミナー I 特別研究 博士論文指導演習



斬新な教育システム



斬新な教育システム

2年次 3年次 5年次 1年次 4年次 学際開拓創成 専門科目 基礎科目 前期 セミナー II 専門領域講究 専門領域講究 後期 学際開拓創成 専門科目 専門領 セミナー I

特別研究

学際的模擬研究テーマ提案型 ワークショップ

各自研究計画申請書案をつくり、 異分野学生間での討論を通じて、 学際性を取り込んだ申請書に仕 上げる。

課外学際·融合教育

オールラボポスターコンテストと懇親会







主な進学先・就職先

東京大学大学院工学研究科、アステラス製 薬、独立行政法人産業技術総合研究所、国立 循環器病センター、日本医科大学、独立行政 法人理化学研究所、九州大学、Salsbury Core (USA), 京都大学大学院薬学研究科、 徳島新聞社、シスメックス、日立製作所、日本 学術振興会特別研究員 等

関連グローバルCOE

2007-2011年度「個体恒常性を担う細胞運命の決定とその破綻」 (拠点リーダー: 藤木 幸夫 システム生命科学府)

2009-2013年度「自然共生社会を拓くアジア保全生態学」 (拠点リーダー: 矢原 徹一 システム生命科学府)

2007-2011年度「未来分子システム科学」 (拠点リーダー: 君塚 信夫 工学府)

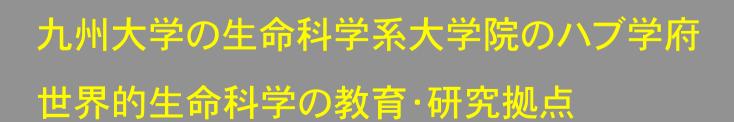
2008-2010年度「マス・フォア・インダストリ教育研究拠点」 (拠点リーダー:若山正人 数理学府)

シス生のこれまでと、これから

2003年 シス生設置

2008年 理学府生物科学科の シス生への再編(統合生命科学)

2010年 病院地区シス生馬出棟竣工 (ウエストウイング 7,8階)



皆さん、

システム生命科学府で一緒にこれからの生命科学にチャレンジしましょう!

